



## ATELIER MUJI

### 企画展

#### 「素材の源流を辿る『渡し舟ーからむしの営み』展

日時：2023.11.3 FRI - 2024.1.28 SUN

会場：無印良品 銀座 6F ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2 入場無料

東京都中央区銀座 3-3-5 無印良品 銀座 6F

■オープニングレセプション：11月3日（金）19:00 - 21:00（受付開始 18:45）

株式会社良品計画は、11月3日（金）より、無印良品 銀座 6F ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2 を会場に、「素材の源流を辿る『渡し舟ーからむしの営み』展」を開催いたします。

日々の生活の中で使用するものとして、長年に渡り、地域の素材と人の手によって作られ、その技や技術が受け継がれてきた伝統的工芸と呼ばれるものたち。この伝統的工芸の多くは、世界のあちこちで、時代の移り変わりとともに、生活様式の変化、作り手の高齢化や後継者不足といった課題に直面しています。株式会社良品計画が企画する『素材の源流を辿る』は、このような課題に向き合いながら、昔ながらの原材料と伝統的な技術を用いて、かけがえのない素材づくりやものづくりに励む作り手にフォーカスし紹介します。

第一弾は「からむし」（苧麻とも呼ばれています）。福島県の山間にある寒冷地、昭和村では、江戸時代から上布用の質の高いからむしを生産してきました。からむしに魅了され、現在この地で活動する渡辺悦子さんと舟木由貴子さん。二名のユニット「渡し舟」の活動を追いかけてきました。展覧会では、からむしの栽培、収穫、織りといった「渡し舟」と自然との営みを紹介します。さらに、染色家・柚木沙弥郎氏や藍師・染師 BUAISOU による、からむしの可能性を探索する試みの展示を行います。この展覧会を通し、からむしという素材の価値の再発見や、わたしたちの暮らしや社会を見直すことへ繋がればと思います。



### 「からむし」とは

からむしは、苧麻ちよまとも呼ばれるイラクサ科の多年草で、少なくとも江戸時代から福島県昭和村で栽培がおこなわれています。昭和村のからむしの質は特に高いと言われていて、「越後上布」「小千谷縮」などの最高級織物の原料として重宝され、皇族・貴族などの身分の高い人たちが、夏の衣装として細く美しく績まれた苧麻布をまとっていました。しかし、現在はライフスタイルの変化や過疎化により、代々受け継がれてきた技術を継承する人は減少しています。

### 渡し舟（渡辺悦子さん・舟木由貴子さん）による、からむしの技術、魅力を伝える活動

からむしを広めていく取り組みとして始まった村の事業、「からむし織体験生『織姫・彦星』事業」に参加し、からむしに魅了された渡辺さんと舟木さん。事業の研修を終了後、結婚を機に定住、「渡し舟」というユニットを結成し、からむしを栽培し、収穫を行いながら、昔ながらの織を学んでいます。季節の巡りに応じて植物と向きあうものづくりをおこない、からむしの技術の継承や魅力を伝える活動をしています。

## 【3部構成による展示】

### ① 季節に根ざしたからむしの栽培



春になり雪が溶けると、宿根草のからむしは土から芽を出す。その芽を焼き、根に刺激を与え芽ぞろえする、からむし焼きを行う。夏には刈り取り、繊維部分を取り出す。そして、糸績み・撚り掛けをして糸作りを行い、雪が積もる冬の期間は織りへ。

### ② 渡し舟 一からむしの営み



からむしに魅了され昭和村に移住し、活動を続けて約20年。今回、Gallery 1 に渡し舟のアトリエを再現します。からむしの繊維部分を取り出すなどの加工をしたり、織る時などの工程で実際に用いている道具などをご覧ください。

### ③ これからのからむしを探る



からむしという素材とアートを掛け合わせ、これからの生活にからむしを取り入れる可能性を探ります。からむしで織ったテキスタイルに、染色家・柚木沙弥郎氏が描いた図案を BUAISOU が型染めしたタペストリーや、BUAISOU がパターンから考え、からむしで織ったテキスタイルに藍染をしたタペストリーを展示します。

※一部作品を除き展示販売 ※全て型染め

BUAISOU / 2015年、藍の本場、徳島県上板町で創業。原料となる藍の栽培をはじめ、染（すくも）づくり、染色、デザイン、製作まで昔から分業制であった藍染業を一貫して行い、藍染のオリジナル商品の製作、コラボレーション、国内外での展示やワークショップなどにも取り組み、さまざまな手法で天然藍の魅力を伝えている。

柚木沙弥郎 染色家 / 1922年東京生まれ。柳宗悦が提唱する「民藝」との出会いを機に、芹沢銈介に弟子入りし染色の道を志す。1955年たくみ工芸店画廊での初個展（銀座）以降50年以上にわたり制作を続け、数多くの作品を発表する。1972年に女子美術大学教授、1987年に学長に就任。2008年から3年連続で、パリのGALERIE L'EUROPEで個展を開催し、高い評価を得る。2013年世田谷美術館で開催の「いのちの旗じるし」が好評を博す。2014年フランス国立ギメ東洋美術館に作品80点が収蔵、同館にて個展も開催。

## からむしは時空を超えて

素材の面白みの一つは、素材を通して、過去の人たちと会話ができることだと思います。昭和村でのフィールドワークを数年にわたり取り組んでいる哲学者の鞍田崇さんの手引きにより、からむしの刈り取りを見る機会がありました。2022年、四季の変わり目「土用」の日のことです。4時30分、日の出とともに一本一本、刈り取りが始まりました。刈り取ったからむしは冷水に浸け、その日のうちに皮を剥ぎます。その皮を金具で引くと青く透き通る繊維「きら」がとれます。一連の工程は日の入りまで続き、その過程で生まれた残渣（ざんさ）は畑に戻し、土壌づくりへと見事な循環を描いています。

また、からむしは私たち人間と同じで、一本一本の個性は千差万別、存在は唯一無二。縄文から受け継いできた先人たちとの会話は不可能ですが、今も続くからむしの布づくりの営みを通して、私たちは彼らと時空を超えて一体になれる気がします。

— 展覧会企画協力：須藤玲子（テキスタイルデザイナー）

このたび、無印良品がこの小さなものづくりの源流に目を向けてくれたことは、本当に大きな驚きと喜びでした。昭和村の営みはとても小さく、今のわたしたちには大きなマーケットに応える事はできません。けれど、この営みには確実に人間が自然と共に生きていくうえで重要なメッセージが隠れています。無印良品が世界中に提案する「感じ良い暮らし」と、この小さな小さな営み…その両者の根っこが地中深くでつながっていることを強く願ってやみません。それが、未来のより美しい暮らしを創っていくのだと…

— 渡し舟（渡辺悦子・舟木由貴子）

### 【Profile】

渡辺悦子、舟木由貴子の二人による、福島県大沼郡昭和村にて、植物繊維“からむし”の可能性を探る活動。渡辺は2001年、舟木は2003年に、からむし織体験生として昭和村へ移住。ふたりでの活動を探りつつ、それぞれに結婚・子育てを経て、2015年予約制ショップ「渡し舟」開設。一年をかけて村の女性たちが地機で織り上げたからむしの布。その布が持つ魅力を伝える商品づくりやワークショップを行う。2021年春に『からむしを續む』を刊行し、からむしを広める活動を続けている。一方、からむし栽培、糸づくり、機織りの技術継承も大切に日々研鑽し実践している。

### 【展覧会概要】

#### ATELIER MUJI 企画展

「素材の源流を辿る『渡し舟—からむしの営み』展

会期 | 2023年11月3日（金） - 2024年1月28日（日） 11:00-21:00

会場 | 無印良品 銀座 6F ATELIER MUJI GINZA Gallery1・2 入場無料

主催・企画 | 株式会社良品計画

展示協力 | 渡し舟（渡辺悦子・舟木由貴子）

空間構成 | たしるまさふみ

グラフィックデザイン | 森田明奈

映像編集・音響 | 春日聡

映像 | 記録映画『からむしのこえ』（監督 分藤大翼 / 製作・著作 国立歴史民俗博物館 / 2019年）より

協力 | 須藤玲子 / 柚木沙弥郎 / BUAISOU / 国立歴史民俗博物館

施工 | HIGURE 17-15 cas

ATELIER MUJI GINZA 公式サイト | <https://atelier.muji.com/jp/>

Instagram | @ateliermuji\_ginza

\*休館は店舗に準じます。会期や時間などの予定変更、またはイベント等によって展示品の一部がご覧いただけない日時が発生する場合がございます。

\*本展覧会中は、関連イベントの開催を予定しています。詳細やお申し込みについては 上記公式ウェブサイトや SNS で随時お知らせ致します。

### 【オープニングレセプションのご案内】

日時：11月3日（金）19:00～21:00（受付開始 18:45）

場所：「素材の源流を辿る『渡し舟—からむしの営み』展 会場

渡し舟（渡辺悦子さん・舟木由貴子さん）、今企画に協力いただいたテキスタイルデザイナー、

須藤玲子さんをお招きします。ぜひご参加ください（ご同伴者さま1名まで）

\*10月27日（金）迄に、右のQRコードより出欠をお知らせください。



出欠フォーム

【本件に関するお問合せ】 株式会社良品計画 経営企画部 広報課 rk-pr@muji.co.jp

【プレスサポート】 デイリースタッフ 竹形 03-6416-3201 / 090-1531-6268 naotakegata@dailypress.org